

税金の役割

南中学校 3年 宮下 咲良

現在の日本は、少子高齢社会です。高齢者数の対総人口比は、他国にも類を見ないほどのスピードで、増え続けてきました。そして、これからもその勢いは止まらず、さらに増えていくと、予想されています。

そうすると、これからの時代は、社会保障がさらに重要視されることになってくると思います。社会保障とは、老齢のために働けなくなってしまい、生活が困難になったとき、国が生活の保護をしてくれる制度のことです。他にも、けがや病気、失業をしてしまった人も、対象者とされています。それにかかる費用は、税金で負担されています。私がこれを知ったとき、税金はこんなところにも使われているのだなど、思いました。また、社会保障といっても、医療費・年金・福祉・介護等の、多種多様なサービスが受けられます。それらを実施するには、介護をする人材を養成するための施設や、設備もかせません。ということは、対象者の一人分だけでも、多額のお金がかかります。

このままだと、日本はどうなっていくのでしょうか。社会保障の対象者が増える一方、将来、税金を納めることになる、産まれてくる子供の数が減っているのです。そうなれば、少ない人数で、この制度を保持していかなければなりません。だから、私が税金を納める義務を負っているころには、きっと、一人ひとりの負担が重くなっていると思います。

でも、私は以前、税金を納めない、いわゆる未納者についての問題を取り上げている、テレビ番組を見たことがあります。大人になると、自動車を買ったり、土地や家を持つたりする人が多いので、税金を払う場面が、増えざるをえなくなると思います。でも、だからといって、税金を払わないなんて、とても不平等になってしまいます。それに、税金を払わないで、一番困るのは、わたしたち自身ではないでしょうか。

これからの税負担を考えると、公正な税負担が求められていると思います。私が大人になったら、きちんと税を納めたいと思います。なぜなら、日本国民の誰かを助けることができたり、自分も、他の人の税金で、助けてもらったりするのが、本当の税金の役割だと思うからです。